

広島大学・立命館大学 協力協定 締結式

2008年8月4日

広島大学 学長 浅原利正

立命館大学 学長 川口清史

広島大学と立命館大学の協力協定締結について —「平和研究・教育」に取り組む両大学の連携—

協力協定締結の背景—P.3

広島大学概要および「平和」への取り組み—P.4

立命館大学概要および「平和」への取り組み—P.7

広島大学と立命館大学の連携の意義—P.11

これまでの連携と今後の具体的連携協力—P.12

協定締結の背景

◆共通の精神◆

【広島大学】

建学の精神：自由で平和な一つの大学

理念5原則：平和を希求する精神、新たな知の創造、
豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、
絶えざる自己変革

【立命館大学】

建学の精神：自由と清新

教学理念：平和と民主主義

以上より、「平和研究・教育」に関する協力協定は、両大学の「建学の精神」
「教学理念」に合致するものである。

広島大学概要

【広島大学概要】

新制国立大学として創設

(母体として広島文理科大学、
広島高等師範学校など7校包括、1校併合)

初代学長 森戸辰男

学部生数:11,077名、大学院生数:4,513名

11学部12研究科1専攻科

11附属学校1病院(2008年5月1日現在)

【国際化についての取り組み】

世界トップレベルの特色ある総合研究大学を目指す

平和科学研究センター(1975年)、留学生センター(1990年)、

国際協力研究科(1994年)、教育開発国際協力研究センター(1997年)、

北京研究センター(2002年)を設置するなど、研究、教育等の国際化を推進

2005年に文部科学省「国際戦略本部強化事業」採択。広島大学の「新」国際戦略を策定

世界26カ国96大学・機関と大学間協定、37カ国133の部局間協定、5ヶ所の海外拠点
(2008年5月1日)



広島大学

「平和」への取り組み(1)

◆研究における取り組み◆

世界へ発信する平和学の研究拠点づくり

- 平和科学研究センターにおける平和に関する研究教育の展開
(1975年設置。我が国最初の平和学に関する学術的研究機関)
- ノーベル平和賞受賞者による平和講演会の開催(2006年度～)
- スtockホルム国際平和研究所(SIPRI)が刊行した「SIPRI年鑑2006」
の日本語翻訳版、「SIPRI年鑑2007」日本語要約版の刊行

広島大学

「平和」への取り組み(2)

◆教育における取り組み◆

平和分野における高度人材育成

- 平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業(外務省委託事業)の実施(2007年度～)
- 広島平和記念資料館を始めとした平和に関するモニュメントの見学実習及びレポート提出(2008年度新入生から実施)
- 新たな平和に関する授業科目の開設及び必修化に向けた検討(2009年度入学生から実施予定)
- 平和に関する授業アイデア募集の検討(2008年度開始予定)

立命館大学概要

【立命館大学概要】

1869年 西園寺公望(学祖)私塾「立命館」を創始

1900年 中川小十郎「私立京都法政学校」を創設

学部生数:33,013名 大学院生数:3,302名

12学部15研究科 (2008年5月1日現在)

【立命館学園】

2大学 4附属高等学校 4附属中学校 1附属小学校

世界56カ国・地域、339大学・機関と結ぶ、国際ネットワークを構築

【国際化についての取り組み】

1988年 国際関係学部設置

1992年 国際平和ミュージアム設置、国際関係研究科設置

2000年 立命館アジア太平洋大学(APU)開設

(世界81カ国・地域から約2,600名の国際学生が集まり、教員も約半数が外国籍という「マルチカルチュラル・コミュニティ」)



【立命館学園中期計画(2007年度-2010年度) 世界に開かれたアジア太平洋地域の教育・研究拠点へ】

- ・21世紀のグローバル時代を担う人材育成
- ・社会に支えられた学園づくり
- ・世界水準の研究成果の創出

【これまでの国内大学との連携】

滋賀医科大学(2002年度～)、京都府立医科大学(2005年度～)、関西医科大学(2007年度～)、
京都大学(2007年度～)、山形大学(2008年度～)

立命館大学

「平和」への取り組み(1)

◆世界初の大学立平和博物館の開設◆

【国際平和ミュージアム(1992年設立)】

「世界平和」を築くために、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者を育むために設立
展示数613点(2008年8月1日現在:常設展示品、写真は除く)

- ・小中高生の学びの場
- ・戦争体験者による語り部
- ・「世界平和」をテーマに様々なイベントを開催

【第6回国際平和博物館会議】

【期間】2008年10月6日(月)～10日(金)

【テーマ】平和創造の空間としての平和博物館

～地球的問題解決のためのピース・リテラシーの構築を目指して～

☆京都・広島を舞台に開催

◆「世界大学生平和サミット」開催(1995年)◆

【実施時期】1995年12月4日～6日

【参加学生】＜世界＞36ヵ国1地域55大学92名

＜日本＞45大学389名

【呼びかけ人代表】大南正瑛 (元立命館大学学長 学校法人立命館名誉役員)

「世界大学生平和サミット声明(The Statement of the World University Students' Peace Summit)」発表

【学生サミット開催実績】

- ・世界学生サミット(2002年10月29日～31日 立命館アジア太平洋大学)
- ・世界学生平和フォーラム(2002年11月1日～3日 立命館大学)
- ・世界観光学生サミット(2005年11月8日～15日 立命館アジア太平洋大学)

立命館大学

「平和」への取り組み(2)

◆研究における取り組み◆

世界へ発信する平和学の研究拠点づくり

- 紛争和解学の創設
 - ・ポスト紛争国家(地域)の再建に貢献
 - ・平和学の「新たなアプローチ」となる「紛争和解学(Reconciliation Studies)」の国際的な研究拠点形成を目指す
 - ・「平和ミュージアム」の新たな戦略と貢献を広める
- ノーベル平和賞受賞者による講演会開催
 - ・2007年10月30日 金大中 氏
(前大韓民国大統領・2000年受賞 立命館大学名誉博士)
 - ・2007年11月15日 ミハイル・ゴルバチョフ 氏
(元ソビエト連邦大統領・1990年受賞)
 - ・2007年12月20日 R.K.パチャウリ 氏
(気候変動に関する政府間パネル(IPCC)議長・2007年度受賞 立命館大学名誉博士)
- 紀要発行「立命館平和研究(立命館国際平和ミュージアム紀要)」

2000年3月25日より発行 第1号～第9号

平和研究面での成果を反映したものであるものとしての学術的水準を追求

「平和」への取り組み(3)

◆教育における取り組み◆

平和分野における高度人材育成

- 主な平和研究関連科目

- 「平和構築と予防外交研究」

- 「平和学研究」

- 「地球市民と平和」など

- 平和研究分野の専門家を客員教授として招聘

- 平和関連フィールドワークの実施(1995年～)

- 「国際平和交流セミナー」の実施

- ①広島・長崎プログラム 「被爆地で世界の学生と平和作りの道を考える」

- 研修期間:2008年8月2日(土)～8月10日(日)

- ②中国プログラム 「中朝露国境地域で考える東北アジアの平和」

- 研修期間:2008年8月中旬もしくは下旬に1週間程度の予定

- ③韓国プログラム 「済州島から見る日韓関係ーその歴史と現在・そして未来」

- 研修期間:2008年8月下旬に8日程度実施予定

広島大学と立命館大学の連携の意義

両大学の研究・教育資源を活かし、
「世界へ発信する平和の研究拠点づくり」・「平和分野における高度人材育成」
を両大学の連携により推進していく



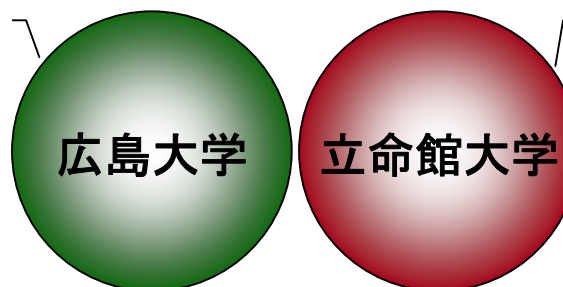
広島大学東広島キャンパス



立命館大学衣笠キャンパス

広島大学と立命館大学の 連携協力

- ◆国内初の平和科学研究センター設立
- ◆ノーベル平和賞受賞者平和講演会
- ◆ストックホルム国際平和研究所 (SIPRI) との連携
- ◆平和構築分野の人材育成パイロット事業
- ◆広島平和記念資料館見学実習
- ◆平和に関する授業科目の開設



- ◆世界初の大学立平和博物館 国際平和ミュージアムの開設
- ◆紛争和解学の創設
- ◆ノーベル平和賞受賞者による講演
- ◆「立命館平和研究」紀要発行
- ◆平和研究関連科目の開設
- ◆平和関連フィールドワークの実施

【両大学のこれまでの取り組み】

- ①INU (International Network of Universities: 国際大学ネットワーク) を通じた交流
- ②文部科学省国際化推進プログラム「先端的国際連携支援プログラム」へ共同申請

更なる連携協力

①INUダブル・ディグリー・プログラム
(2008年度後期～)

②単位互換制度
(2009年度～)

③学生交流

両大学のこれまでの取り組み①

大学間国際コンソーシアムInternational Network of Universities (INU)を通じた交流

◆「地球市民と平和」に取り組む国際大学ネットワークINU◆

- 1999年設置
- オーストラリア ラ・トロブ大学オズボーン前学長が提唱
- 9カ国11大学が加盟(2008年7月1日現在)

【主な活動内容】

- ①学生交流
- ②教職員交流
- ③研究協力
- ④共同プログラム開発
- ⑤INUネットワークと加盟各校との関係強化策
- ⑥INUの管理運営

【広島大学】

2000年加盟
2003年より理事校

【立命館大学】

2004年加盟
2006年10月 研究ワークショップ開催「加盟大学の研究部門に所属する教職員のワークショップ」
2008年度立命館大学にて総会実施

両大学のこれまでの取り組み②

文部科学省国際化推進プログラム
「先端的国際連携支援プログラム」へ共同申請

◆平成19年度大学教育の国際化推進プログラムに広島大学・立命館大学が共同申請し採択(平成19年～21年)◆

【取組名称】

平和学共同修士プログラムの開発・国際展開

【取組概要】

- ・広島大学と立命館大学が国内で共同体制を構築し、両大学が加盟しているINUの海外の加盟大学と国際連携を行い、「平和研究」分野での共同修士プログラムを新たに開発。
- ・学生は広島大学または立命館大学の修士学位と海外の大学の修士学位を同時に取得できる。

更なる連携協力に向けて(1)

①INUダブル・ディグリー・プログラムの開発(2008年度後期～) 『地球市民と平和:Global Citizenship and Peace』の開発と実施

- ・国際的に活躍する人材の育成
- ・海外のINU加盟大学に1年間留学し、日本と海外のそれぞれの大学から修士学位を取得(ダブル・ディグリー)
- ・「地球市民と平和」に関連する分野の修士学位を取得

【授業形態】

- ・対面講義
- ・教員を相互に派遣して行う集中講義
- ・Web CT講義

※授業料は相互不徴収

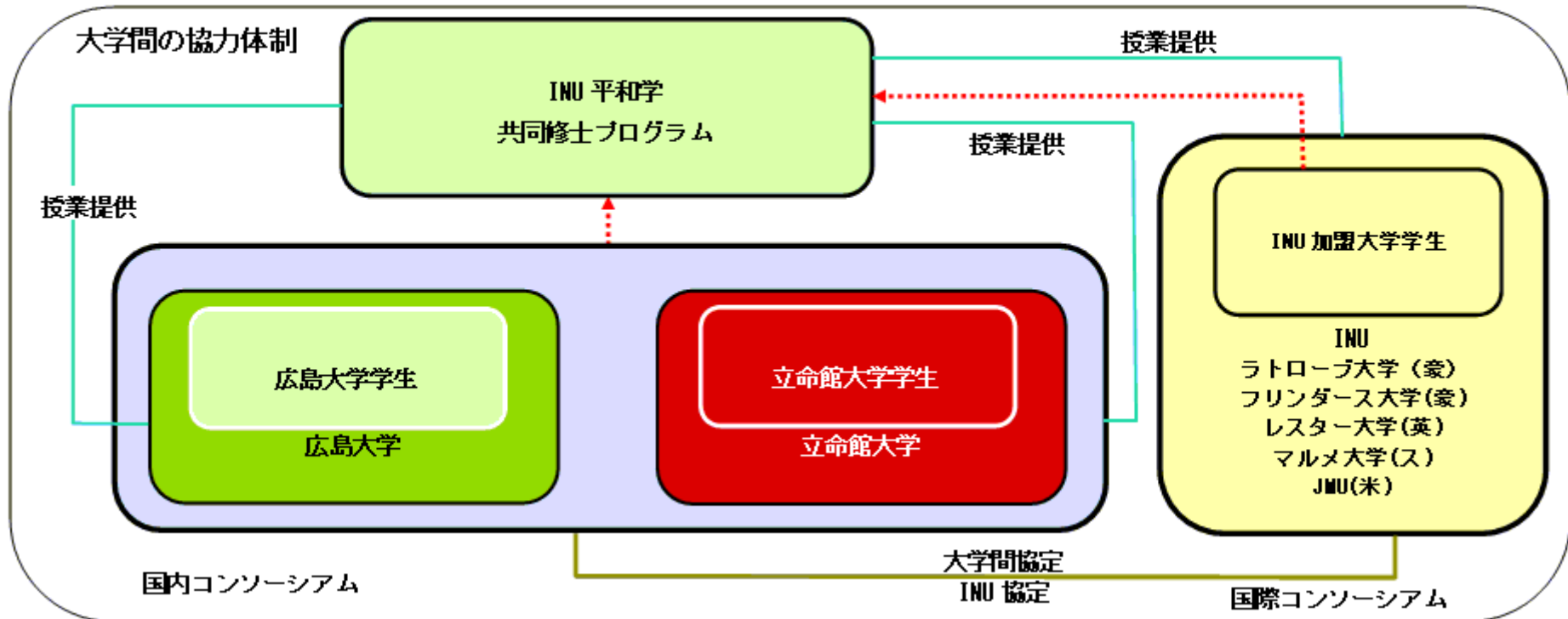
【期待される社会的効果等】

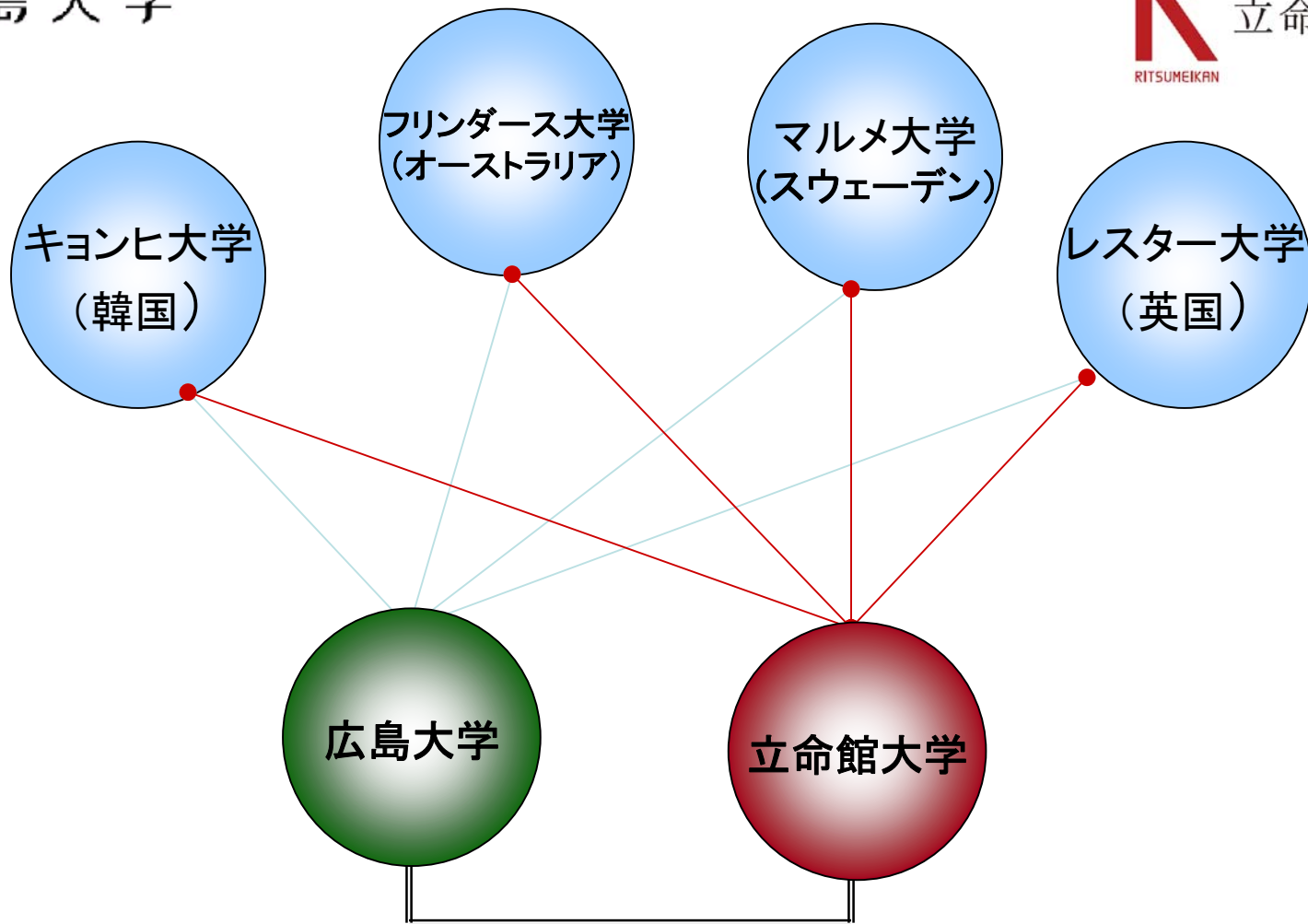
- ①平和分野の高度な人材育成における日本の大学の国際的貢献とプレゼンスの増大
- ②プログラムの開発による国内の大学のカリキュラム開発力向上と質の高い教育の提供
- ③国立と私立の大学の教育における対話・共同・連携プログラム開発のモデル模索
- ④海外の大学との連携のあり方について、国際的大学間コンソーシアムの活用モデルの提示
- ⑤海外からの優れた留学生を引き付ける効果

【2008年度中に協定を締結予定の大学】

キョンヒ大学(韓国、広島大学締結済み)、フリンダース大学(オーストラリア)、
マルメ大学(スウェーデン)、レスター大学(イギリス)

① INUダブル・ディグリー・プログラム(2008年度後期～)
『地球市民と平和: Global Citizenship and Peace』イメージ図





更なる連携協力に向けて(2)

②両大学大学院における単位互換の実施(2009年度～)

- 本協定に基づき、両大学大学院の単位互換に関する覚書を締結(近日)
→大学院生が、相互に授業科目を履修し単位取得

【対象研究科】

広島大学大学院社会科学研究科、国際協力研究科、教育学研究科
立命館大学大学院国際関係研究科

【単位認定の仕組みの一例(立命館大学)】

90分×3コマを5日間(夏季集中)2単位認定。
修了30単位中10単位まで取得可能。

【広島大学「平和関連」開講科目一例】

「戦争と平和の国際法」
「国際機構論」
「国際人権法」 など

【立命館大学「平和関連」開講科目一例】

「平和構築と予防外交研究」
「平和学研究」
「地球市民と平和」 など

更なる連携協力に向けて(3)

③学生交流

◆「平和」に関するINU学生セミナーの開催(2006年度～)◆

INU加盟大学の学生に対し、著名なゲストスピーカーとのディスカッションやワークショップ等を通じて、「地球市民と平和」について考え討議する機会を提供

【第3回INU学生セミナー／2008年8月5日(火)～10日(日) 広島大学にて開催】

【プログラム】

- ①ジャヤンタ・ダナパラ氏による基調講演
(パグウォッシュ会議(ノーベル平和賞受賞)の会長・元国連軍縮担当事務次長)
- ②ナスリン・アジミ氏による講演(UNITAR広島事務所長)
- ③広島平和記念資料館の見学
- ④平和記念式典への参列
- ⑤被爆者の方による体験講和
- ⑥模擬国連総会「テーマ:核兵器は国際法上非合法か」

◆両大学教員が相互のキャンパスに訪れ、各々授業を担当◆

◆今後、広島大学・立命館大学の学生が中心となった取り組みを開催予定◆

ご清聴ありがとうございました。